

クラス担任のための Career Guidance

2013 >> VOL.19

【キャリアガイダンス 特別編集】



イラスト 藤井昌子

「将来の生き方や進路について考えるために指導してほしいかったこと」ベスト10

1. 社会人・職業人としての常識やマナー	40.1%
2. 自分の個性や適性(向き・不向き)を考える学習	39.3%
3. 卒業後の進路(進学や就職)選択の考え方や方法	32.0%
4. 上級学校(大学、短大、専門学校等)の教育内容や特色	27.9%
5. 産業や職業の種類や内容	26.8%
6. 就職後の離職・失業など、将来起こり得る人生上の諸リスクへの対応	26.1%
7. 将来の職業選択や役割などの生き方や人生設計	24.3%
8. 卒業後の進路(進学や就職)に関する情報の入手方法とその利用の仕方	21.7%
9. 学ぶことや働くことの意義や目的	21.2%
10. 卒業後の進路(進学や就職)についての相談の方法や内容	18.6%

※国立教育政策研究所「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査」2012より

先生のこんな指導。今だから「ありがとう!」

- 社会人からは、高校時代に出会った先生たちへのたくさんの「ありがとう」コメントも出てきました。本文ではあえて不満を中心に取り上げましたが、ここでははっきり感謝の気持ちもご紹介します!
- 「あなたの思うようにやってみなさい。そう声をかけてくれた先生に感謝。ああしろ、こうしろといったことは一切言わず、一人の人間としてフラットな視点で向き合ってくれたのが大きな支えになりました。だからこそ、いろいろな大人の人に出会って、日々の中で進路を決めることができたと思います」
(27歳・愛媛県・公立校→私立大→マスコミ)
 - 「勉強のモチベーションが下がらないとき、活を入れてもらうために先生のところにも行ってた。なぜ勉強するのかなど、ぐずぐず言う私に「お前の気持ちもわかるけどな、自分のためやぞ」と、いつも面倒臭がらず、毎回納得できるようにいろんな話をしてくれた。そんな先生はなかなかいなかったの、とても感謝している」
(29歳・京都府・私立高→私立大→サービス業)
 - 「厳しい先生で、毎日授業で叱られていて、それが悔しいので勉強に励んだ。今となっては感謝しています」
(27歳・大阪府・私立高→私立大→メーカー)
 - 「オールコミュニケーションを教えてくれた外国人の先生は、休み時間にも母国の話をしてくれてワクワクした。あえて英語だけで会話をしてくれて、自分の枠を広げる経験を与えてくれたのを感じたし、卒業するとき「あなたならどこに行っても大丈夫」と言ってくれたのが、今も支えになっている」
(27歳・福島県・私立高→国立大→IT・情報通信)

今だから言える

社会に出て働き始めると、高校時代の進路選択の重要性に気づくことがあります。そこで今回は、あえて社会人の皆さんに、「もったこんな指導をしてほしかった」を直撃しました。

取材文/清水由佳ライター・キャリアカウンセラー

「先生、こんな指導をしてほしかった」

先生たちの指導

生徒たちに届いていますか？

20歳代〜30歳代前半の社会人20人に、高校時代の担任の進路指導に対して、もったこんな指導してほしいということや、印象に残っていることなどを質問したところ、「そもそも、進路指導をされた記憶がない」(22歳・千葉県・公立高)、「特に指導がなかったため、印象に残っているものがない」(35歳・広島県私立高)などの回答が寄せられた。

思い込みと、価値観の押し付けをしないでませんか？

前出の二人の場合でも、「体育館に集まって文理選択の話があったり、志望校を書いて提出したりはした」模試の結果や偏差値などを個別に担任に相談した」と回答。つまり、上級学校への進学に関する情報提供や相談は行われていた様子。

ただし、「目指すべき学校ありき」で指導が行われると、「先生には、いろいろな視野をもつために、さまざまな働き方をしている人との出会いを作ってもらいたかった」というように、大きな視野での進路指導がないという不満が生まれるようなのだ。

また、「国立大学V偏差値に合う大学V学力的にいけるX興味が少ない」とある学部、という優先順位で指導がされていたように思う。高2の三者面談で、東京の私立大学に行きたいと言ったら、「お前は大学をブランドで選ぶの

か。地元の国立大学に行け」と言われ、母と一人がっかりし、それ以降は進路相談を先生にはせず、自分でやっていたと決意した(28歳・福岡県・公立高)。「指定校推薦で自分の第二志望の大学に選ばれたが、なぜもったと上位ランクの大学を希望しないのか」と言われた。でも、先生が言う大学には

私が希望する学部はなく、大学で何を勉強するかよりも、どこで学ぶかのほうを優先する先生なんだと思ひ、進路の相談は塾の先生や先輩、友達にしていた(27歳・神奈川県・公立高)といったように、先生自身の価値観の押し付けで、生徒の心が離れていってしまったケースも多い。

可能性や視野を大きく広げてほしかった

「先生が教えてくれるのは国公立大学ばかりだった。とにかく国公立!で、なぜ国公立が良いのかということ、は、教えてもらったかもしれないが、多く記憶に残っていない。あとき、日本にはもったこんな大学があることを知り、学問についてもちゃんと調べていけば、他の進路選択ができたのではないかと思う(29歳・愛知県・公立校)。「殺し文句は「大学に行けばパラダイス」。今だけ勉強すれば良いという妄想を押し付けられ、大学に行つてから非常に苦しんだ(31歳・大阪府・私立高)などのように、卒業後に世間の広さや現実に驚く人も。そして、「たとえ先生方の実体験のみをベースにした

お話でも、人生のおもしろみ、辛いこと、生きる意味を踏まえた進路指導、人生相談をしてもらえたらよかった」(29歳・神奈川県・私立高)と、将来を見据えた情報提供や相談に期待しているのだ。

あの有名先生はこんなクラス担任だった!

京都市立堀川高校・前校長・荒瀬克己先生との思い出
写真家：平野愛さん
(1994年、高校1年次に荒瀬先生が現役に担任を受け持った最後のクラスの教え子。現在は、コマースフォトや書籍・雑誌の撮影などで活躍中。美術大学の非常勤講師として教壇に立ったことも)

あきらめずにクリエイティブに。
写真家としての原点です

高校1年次の思い出といえば、文化祭と体育祭。この二つに向けて、クラス全体が1つになって頑張ったというのが思い出です。それができたのも、荒瀬先生の存在があったからこそ。特に体育祭のときは、黒地に「疾風怒濤」と金文字がバンと書かれたTシャツを先生が作ってきて、「できたぞ!」と教室に持ってきたときの笑顔が今も脳裏に焼きついています(笑)。

先生をひとりで表すと、まさにこの「疾風怒濤」だと思っています。体育祭の応援は、誰よりも声が大きくて、頼りになるというか、守られている、信じてもらっているという安心感がありました。私がダンスの振り付けで悩んでいたとき、「あきらめるな。絶対できる。ただ、そのやり方でいいのか? 違う角度で考えてみたらどうだ」とひと言かけてくれる。決してあきらめず、見方を変えてクリエイティブに。それを徹底して促してくれていたと思います。それは、写真の仕事でも私の根っこにあるものです。先生が残してくれた言葉の数々は、今もずっとつながっているなあと思っています。

未来へつながる、学びが見えてくる。高校進路指導・キャリア教育の専門誌

リワナビ進学 キャリアガイダンス



- 【好評既刊】
No.46 2013年5月発行
高校生が社会を知る57の方法
- No.47 2013年7月発行
学習意欲を高め学力につなげる授業改革
- No.48 2013年10月発行
コミュニケーション能力を育む
- 【今後の予定】
No.49 2013年12月発行
高校生のキャリアデザイン入門
- No.50 2014年2月発行
保護者は高校生の進路選択にどうかかわる

「キャリアガイダンス」誌は全国の高校に贈呈しています(校長、教頭・副校長、進路指導主事先生宛に郵送) バックナンバーの記事はすべてWEBサイトで閲覧いただけます
http://souken.shingakunet.com/career_g/ キャリアガイダンス 検索